

令和6年度 機関別認証評価の結果における優れた取組み

公益財団法人 日本高等教育評価機構

1. 大学

機関名	基準項目	優れた点
愛知学泉大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	法人の使命・目的を達成するために開発された、独自の学修モデルである自学・共学システム「学びの泉」は、創立者の想いを社会の変化に対応させて具体的に求められる能力を明確に示し、学修成果におけるアセスメントとなるほか、学生は「学泉ノート」における自己チェックや「学びの泉グランプリ」における発表の場などを通して建学の精神の理解を深めることのできるシステムであることは評価できる。
青森大学	2-2. 学修支援	学修支援の柱となる教務委員会及び学生委員会で教員が委員長、職員が副委員長を担うことで教職協働が担保され、綿密なコミュニケーションのもと、学修支援の実行力が高められていることは評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	むつ市の強い要望のもと開設されたむつキャンパスは、改修された下北文化会館を校舎として提供を受けて運営しており、大学の教育・研究だけでなく地域のコミュニティとしても活用されている点は地域に密着した大学の好例として評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	「地域創成科目」として「あおもり学」「ねぶた学」「地域貢献演習」等を置き、学生が卒業後も地域における活動に参画することを目標に、さまざまな地域連携をテーマに課題解決型学修により実践的に学んでいる点は評価できる。
	4-3. 職員の研修	教職協働の理念のもと、FD・SD委員会を設置し、全学をあげてFD・SD活動を推進しており、3キャンパス体制を踏まえた教員及び職員が参画する作業部会、各部局単位での研修も積極的に行い、PDCAサイクルを確立している点は評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	SDGs研究センターを開設するなど、環境保全に関してSDGsの考え方を取入れた人づくりを実践している点は評価できる。
浦和大学	2-3. キャリア支援	キャリア支援事業やインターンシップなどの多様な手法により、手厚いキャリア形成支援を行い、高い就職率を維持している点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	学生の経済状況に鑑みて、学費の減免制度や家賃補助、バス通学定期代の一部補助、「100円食堂」などの独自の学生サービスを実施している点は評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	各副学長は、大学改革担当・高大連携担当・IR(Institutional Research)担当と組織上の位置付け、役割も明確であり、機能していることから権限の適切な分散と責任の明確化に配慮された教学マネジメントが構築されていることは評価できる。
	5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック	監事は、理事長と内部監査室とともに、年度始めにその年の監査計画を策定するための「学校法人九里学園監事会」を行うとともに、「監事監査実施方針」及び「定期内部監査及び監事監査」などに関わり、監事としての職務を適切に行っていることは評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	浦和大学アセスメント・プランを定め、入学前、入学時、在学中、卒業時、卒業後の各時期に、機関レベル、学科レベル、授業科目レベルにおいて検証方法を定め、三つのポリシーに基づく評価を適切に実施していることは評価できる。
エリザベト音楽大学	2-1. 学生の受入れ	全ての入学試験受験者に学長面接を実施し、総合的な判断に基づいてアドミッション・ポリシーに沿った入学者を選抜していることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	給付型の多種多様な奨学金制度を充実させ、学生の経済的負担の軽減に努めている点は評価できる。
	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	「履修プログラム」は、学生一人ひとりが卒業後の進路を勘案しつつ、専門性を深める科目を主体的に履修することができる柔軟さがあり、高く評価できる。
大阪青山大学	2-3. キャリア支援	各学部・学科ともきめ細かな就職支援活動が展開されており、全学科就職率100%を達成している点は評価できる。

大阪河崎リハビリテーション大学	4-2. 教員の配置・職能開発等	教員業績評価に関連して、学長が全専任教員の面談を行い、教員個々の意見をくみ上げている点は高く評価できる。
	4-4. 研究支援	学長を中心とした外部資金獲得に向けた助言・指導や英文誌「COGNITION & REHABILITATION」の発行などの取組みにより、外部資金獲得件数及び獲得金額が年々増加していることは評価できる。
大阪国際大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	建学の精神「全人教育」を推進するため、「第2期中期経営計画」で教学改革「全学共通した『体験型・実践型』の学び（PBL/AL）の推進」を掲げ、地域連携や国際交流を通じた学びを着実に推進している点は評価できる。
大阪成蹊大学	2-3. キャリア支援	「就職ガイドブック」は就職活動の所作から書類の書き方、企業研究から就職試験に至るまでの一貫した流れの詳細をこの冊子から把握できるように作られており、広く活用できる点は高く評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	学生評価員の制度が整えられており、学生の意見・要望を的確に捉える仕組みとして機能していることは評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	「大阪成蹊大学LCD教育」という体系立てられた教育プログラムにより、学部横断的な教育改善が継続的に行われている点は評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	「教学改革FSD会議」が作成公表している内部質保証に関する「大学中期計画・内部質保証」が、詳細かつ具体的で、PDCAサイクルに沿って記述されている点は高く評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	内部質保証のPDCAサイクルに学生評価員の意見を反映させる仕組みを取入れ内部質保証をより実質化していることは高く評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	各種アンケートの内容が具体的かつ緻密で、アンケート結果はIR推進室が中心となって統計学手法も用いて詳細に分析し、「教学改革FSD会議」に報告を行い、PDCAサイクルを回すことに貢献している点は高く評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	内部質保証のPDCAサイクルについては、学生代表を参加させているほか、課題を中期計画に具体的に示すなど、実質的・効果的・有機的であり、教職協働のもと、全学的に取り組んでいることは高く評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	内部質保証に関する取組み状況について、外部のステークホルダーである「大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学運営諮問会議」に付議していることは評価できる。
大阪人間科学大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	学生が主体となり、日本の社会課題の解決に取り組む「未来科プロジェクト」は、建学の精神や大学の使命・目的に沿った特色ある教育プログラムとして評価できる。
大阪物療大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	学生自治会からの要望に対して学生委員会が窓口となり、「新しい身だしなみ規定」を考案、実行しており、学生からの意見に対して教職協働で対応している点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	ディプロマ・ポリシーの評価として、担任が学期ごとに学生と「ポートフォリオ」を使用し、達成度を確認する個別面談を行い、学修指導に活用していることは評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	教育の質的向上を図る点において、新任教員説明会をはじめFD研修等に積極的に取り組んでおり、教員間の授業参観や情報共有等も活発に行っている点は評価できる。
沖縄科学技術大学院大学	2-4. 学生サービス	リサーチ・アシスタント制度やティーチング・フェロー制度などの経済支援と、保健センター、「がんじゅうサービス」、クリニックでの健康支援のほか、チャイルド・ディベロップメント・センターや学生宿舎など多様な支援体制を整備している点は評価できる。
	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	「学位論文審査パネル」に二つの異なる国から国際的な専門家を学外審査員として任命している点は評価できる。
沖縄キリスト教学院大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	「創立の理由」「建学の精神」を教学の基本として誇りを持ち大切にし、キリスト教関係科目や「フレッシュマン・セミナーⅠ」などで、全学生に具体的かつ継続的に伝え、その確かな浸透と具現化に尽力している点は高く評価できる。
開智国際大学	3-2. 教育課程及び教授方法	国際教養学部の1年次に海外研修を必須科目として設定することで、早期の異文化交流体験を通して学生の英語学習に対するモチベーションを高めている点は高く評価できる。

開智国際大学	4-2. 教員の配置・職能開発等	授業を学生の目線から検討することを目的とした学生FD委員制度を設け、実際に授業を見学した上での意見を学生から直接収集し、FD活動の推進につなげている点は、評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	法人全教職員を対象とした「全体会」を年間2回実施し、理事長自ら法人の使命・目的の実現に向けた方向性や基本的な考え方を直接伝えている点は、評価できる。
関東学園大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	在学生の満足度と学修意欲の向上を図るために、食堂の女子トイレのパウダールーム改修など、可能な範囲で学生の要望に迅速に対応している点は評価できる。
共栄大学	4-3. 職員の研修	若手職員が中心となり、大学の現状について多面的総合的分析を行い、取り組むべき五つの施策を明示し、次期大学中期計画に反映することが見込まれる「将来構想プロジェクト本報告書」をまとめ上げた取り組みは評価できる。
京都芸術大学	2-2. 学修支援	学生の創作活動を広く支援するための「ウルトラファクトリー」を設置し、専門の技術員が常駐してサポートしていること及びライセンス制度によって安全面も考慮した運用をしていることは、高く評価できる。
	2-4. 学生サービス	芸術研究科では、大学独自の奨学金制度として「大学院特待生制度」「長谷川記念奨学金」「大学院研究・制作・発表助成制度」を設けており、手厚い助成が行われていることは、高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	図書館の開館時間は、通学課程及び通信教育課程の全開講日に対応しており、日曜日・祝日も開館されていることは、高く評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	学科ごとの学修成果の点検・評価を行うことを目的に、学科別に作成された自己点検評価書をもとに、カリキュラムの外部評価を実施している点は、高く評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	FD研修において、教員推薦又は公募により参加した学生を「学生FD委員」として任命し、学生参加型の「授業カイゼン研修」を行い、学生からの具体的な提案を改善に活用していることは評価できる。
京都情報大学院大学	4-1. 教学マネジメントの機能性	業務の効率化及び教職協働を推進することを目的として、「アドミニストレーション教員」を配置していることは評価できる。
倉敷芸術科学大学	2-2. 学修支援	「AAD（アカデミックアドバイジングデスク）」を開設し、専任教員を配置してオープンスペースで相談しやすい環境を整備し、学生支援に積極的に取り組んでいることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	多様な悩みや修学への困りごとを抱えた学生に対する個別相談支援を目的として公認心理師等のカウンセラーを、生活支援や外部機関との連携を強化する目的として社会福祉士のソーシャルワーカーを配置し、相談体制を整備していることは評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	大学評価委員会に学外の有識者4人を委員として加え、内部質保証の有効性・妥当性を客観的に点検・評価するために客観的な意見を聴取し、改善につなげている点は高く評価できる。
群馬パース大学	2-3. キャリア支援	グループ会社内に就職支援や再就職支援を行う部署を立上げ、多くの実績を上げている点は評価できる。
	5-4. 財務基盤と収支	寄付募集における取り組みとして、寄付金額10,000円以上の寄付者を対象に、葉をモチーフとしたメモリアルプレートを作成・校舎内に常設展示する等、寄付意欲につながるような工夫を図っていることは評価できる。
	5-4. 財務基盤と収支	寄付金控除型のクラウドファンディングを活用していることは評価できる。
神戸医療未来大学	2-4. 学生サービス	対面での学生指導にとどまらず、SNSも積極的に活用することで、学生にとって教職員が身近な存在となり、コミュニケーションや相談がしやすい関係を構築していることは評価できる。
国際大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の意義や目的を実現するための具体的な方策について、大学運営に関わる教職員が各種外部機関を訪問し、意見・要望を聴取して大学運営に取り入れている点は評価できる。
	2-2. 学修支援	国際関係学研究科修士課程でのファカルティコンサルタント、国際関係学研究科博士後期課程での主任指導教員と副指導教員2人の研究指導体制や国際経営学研究科のメンター制度をはじめとした手厚い教育研究支援体制を整備していることは評価できる。
	2-4. 学生サービス	大学独自の奨学金である「国際大学中山素平記念奨学金」により、学生に対して手厚い経済支援を行っていることは高く評価できる。

国際大学	3-2. 教育課程及び教授方法	国際経営学研究科が、ビジネススクールの世界的認証機関であるAACSBの認証を受け、教育課程の編成、教授方法の改善を継続的に実施している点は評価できる。
	5-4. 財務基盤と収支	平成27(2015)年度から地元南魚沼市の協力のもと、同市のふるさと納税メニューに「国際大学応援コース」を設け、集まったふるさと納税寄付を学生支援のための補助金として交付される仕組みを構築したことは高く評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	修了時アンケート、学修目標達成度調査、授業評価アンケートなど、教育成果を継続的に点検・評価するためのデータが、個人レベル、各教育課程・プログラムレベルで詳細に分析・比較できるようにシステムが構築され、活用されていることは高く評価できる。
札幌大学	5-1. 経営の規律と誠実性	地理的な特性を生かし、ハラスメントの防止や障がいのある人への対応、LGBTQへの取り組みのみならず、アイヌ民族を題材にした差別、偏見のない社会の実現に向けた教育研究活動、啓発活動を積極的に行っていることは高く評価できる。
	5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック	法人、大学間のコミュニケーションが活発に行われており、監事による充実した監査業務も相まって、法人全体の管理運営の円滑化に大きく寄与していることは評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	「自己点検・評価規程」に基づき外部評価委員からの助言・意見を聴取する体制を整え、その意見を大学の自己点検・評価に反映させ改善に生かしていることは評価できる。
札幌大谷大学	2-2. 学修支援	新入生全員を対象にして、公認心理師による個人面談を実施しており、早い段階で教学との連携をとりながら、学生のつまずきや困難を把握しようとしている点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	卒業生アンケートや就職先アンケートの結果に基づき、大学共通科目「札幌大谷キャリア支援プログラム」にパソコン・IT技能に関わる資格の講座を組入れ運用するなど、学修成果の点検・評価結果を活用した具体的な施策を実施している点は評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	「三つのポリシーに基づく取組の点検・評価」を大学が所在する札幌市東区に毎年依頼し、外部者により三つのポリシーの教育効果を点検していることは評価できる。
山陽学園大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	建学の精神に基づき定めた「教学マネジメント基本方針」に従い、各学科が「教学推進会議」と連携し学問分野の進展や社会ニーズの変化に適合しているかを検討している点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	インターンシップに関しては、地元優良企業と綿密に連携し、学生の要望を聞きながら、多様な形態で現場で学ぶ環境を整えていることは評価できる。
尚綱大学	2-4. 学生サービス	全学生に対し疲労蓄積度調査を毎年実施し、臨床心理士による分析結果を学生にフィードバックすることで、学生の健康的な生活をサポートしていることは評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	情報倫理及び人権配慮の観点から「尚綱学園ソーシャルメディア利用のガイドライン」を策定し、ソーシャルメディアの適切な利用に関する啓発を行っている点は評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	毎年度、外部有識者による外部評価委員会を開催して外部評価報告書を作成し、自己点検・評価委員会、内部質保証委員会、評議会、常勤理事会などで共有することで、運営の改善・向上、内部質保証の向上に取り組んでいることは評価できる。
尚綱学院大学	2-2. 学修支援	学生ポータルシステム、学習サポートセンター、オフィスアワー、アドバイザー制度等のシステム整備と適切な人員配置により、多様な学生にきめ細かい学修支援を行っていることは評価できる。
	6-3. 内部質保証の機能性	外部評価委員会が取りまとめた「外部評価報告書」を大学教育水準の向上や組織運営の活性化に生かしている点は評価できる。
白梅学園大学	2-4. 学生サービス	学生生活支援室にキャンパスソーシャルワーカーが配置され、進路等に関わる問題を含め、多様な学生相談等を実施している点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	支援を必要とする学生に食料品や日用品を提供する活動「しらうめフードパントリー」が企画され、教職員と学生ボランティアにより運営されている点について、学生の要望をくみ上げた成果として評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	専任教員が執筆した「アカデミック・スキルテキスト 白梅オリジナルテキスト」を導入し、教養教育段階はもとより3・4年次におけるゼミ、関連科目、大学院教育まで体系的に学修できるようにしている点は評価できる。

白梅学園大学	3-3. 学修成果の点検・評価	卒業論文の提出者全員が卒業論文の内容を発表する「子ども学会」を開催し、学内に公開していることは、学修成果の可視化の取組みとして評価できる。
星槎大学	2-2. 学修支援	学修支援の一環として、学生向けの「学修指導書」や、配慮が必要な学生への対応を示した「学生支援のためのスクーリングサポートブック（教職員用）」を作成・配付し、学生への教育を、教員が円滑に行える支援体制を構築していることは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	IR室がその機能を十分に発揮し、教育研究情報や学生支援、社会貢献活動等のデータと分析結果を「ファクトブック」に取りまとめて研修会を実施し、教育研究や学生募集活動などの改善に活用している点は高く評価できる。
聖泉大学	2-4. 学生サービス	「学生ボランティア活動への支援に関する規程」を作成し、地域連携交流センターの教職員と学生が一体となり地域貢献活動を積極的に行っている点は評価できる。
清和大学	2-3. キャリア支援	「警察官・消防官特進クラス」や「公務員対策講座」「行政書士」「司法書士講座」など法学部の特性を生かしたキャリア支援のための講座が充実しており、取分け「公務員対策講座」は多数のプログラムが生まれ、それぞれの志望職種に応じて履修ガイドが作られ、学生の科目選択の便宜を図るなど、きめ細かい受験指導が行われていることは高く評価できる。
	2-4. 学生サービス	少人数教育を実施していることに照らして、専門的かつ一元的な相談窓口にとらず、相談者の必要に応じて、窓口間の連携をとることで、多面的な支援を行っており、どこでも相談できる支援体制を構築していることは評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	学生満足度調査の結果を受けて学友会執行部が、一般学生の意見等のレポート収集を行うなど、学生の要望等をくみ上げる過程に学生が主体的に関与できる仕組みができていることは高く評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	「授業改善のためのアンケート」について、教員が担当科目のアンケート結果を自らクロス集計によって分析できるよう設計するとともに、アンケート結果と各教員によるフィードバックを学生と全教職員間で共有することによって、教育内容・方法などの向上に寄与していることは高く評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	教学部門の重要役職者に加え、副理事長及び大学事務局長を含む学長室会議を設置し、大学全体に関わる重要問題を解決するための補佐機関としており、学長がリーダーシップを発揮できる体制を整えていることは評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	「ファカルティ・ディベロップメント委員会」には、専任教員だけでなく専任職員も委員として参加しており、教員の立場とは異なる視点からの意見を反映させることが可能な環境を維持し、大学全体としての教育の質的向上を目指して取り組んでいることは評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	「学校法人君津学園危機管理規則」に基づき「清和大学防災規程」を制定し、「自衛防災隊」を定めるとともに、避難訓練だけでなく消火訓練等を実施し、安全性を確保する体制を構築していることは評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	「学校法人君津学園内部監査規程」に基づいて内部監査室を設置し、専従の職員を配置して監査計画に基づいた監査を実施するとともに、内部監査室長が監事及び会計監査人との情報交換を行うなどして、監査体制を強化していることは評価できる。
仙台大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	令和5(2023)年度から、若手教職員を中心とした「プロジェクトチーム」を設置し、10年後のビジョンを見据えた改善・改革すべき点等について議論を開始していることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	「大学紹介インターンシップ」の一つとして、仙台市に本拠地を置くプロスポーツ団体とアカデミックパートナーシップ協定を結び、学生の学ぶ機会を提供していることは高く評価できる。
	2-4. 学生サービス	アスレティックトレーニングルームを設置し、医師の指示のもとでアスレティックトレーナー資格保有者及び学生トレーナーがスポーツ外傷・スポーツ障害のアスレティックリハビリテーション等の指導を行っていることは高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	「ラーニングcommons」を整備し、アクティブ・ラーニングなど学生たちの主体的な活動を支援する環境として提供するとともに、学生と教員とが学び合う場となっていることは高く評価できる。

仙台大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	学修支援に関する学生の意見・要望に応じた改善事例として、「公務員採用塾」を発足させていることは評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	英語教育においては実用性を重視し、継続的な学修による学力向上を目標としており、そのためのオリジナルテキストを作成し、オープンな教育リソースとしてホームページにも公開している点は評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	「学生参加型FD研修会」を開催して学生からの意見をくみ上げ、教員と学生による相互補完的な活動によって教授方法の工夫・改善に取り組んでいる点は評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	学校教育法上の助手とは異なる「新助手」という独自の職位を設け、教員と事務職員をつなぐ教育活動を間接的に補助する業務に従事させていることは評価できる。
	4-3. 職員の研修	若手職員育成のため、法人が学業経費を一部負担し、計画的に通信制の大学院へ進学させるなど学びの機会を与え、かつ大学院修了者については、積極的に部長・課長等の管理職に登用するなど、知見を現場に生かせるような組織づくりを行っていることは評価できる。
	5-4. 財務基盤と収支	「第Ⅱ期中期経営計画」を作成するに当たり、計画進捗の明確化のためにKGI（重要目標達成指標）、KPI（重要業績評価指標）を設定するとともに、理事会・評議員会での意見聴取のほか、学外有識者にも意見聴取を実施し計画に反映していることは評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	各教学組織や事務組織の長を対象とした自己点検・評価を行うことにより、教職員の自己成長と組織全体の進化を促し、大学の教育・運営の質を高める重要な仕組みとして機能していることは評価できる。
千里金蘭大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	新入生に対して、建学の精神等を入学式において映像で紹介するとともに、必修科目「持続可能社会論」において学長自らが伝える機会があるなど、在学生に向けて継続的に周知していることは評価できる。
	2-2. 学修支援	看護学部看護学科において、人材確保が難しい中、SP（Simulated Patient：模擬患者）を導入し、臨地実習に近いリアリティのある演習を行うことで、高い教育効果を挙げている点は高く評価できる。
	2-3. キャリア支援	全学的なインターシップとは別に、栄養学部栄養学科に「食物栄養インターシップ」、教育学部教育学科の「子どもインターシップ」「海外インターンシップ」など、学部・学科の特性に沿ったインターンシップが実施されている点は評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	教養教育科目の「持続可能社会論」では、3学部合同のクラス編成でアクティブ・ラーニングを用いて学び、SDGsとそれぞれの専門教育を関連付けている点は評価できる。
	4-4. 研究支援	科学研究費助成事業などの外部資金の獲得を前提とした大学独自の研究助成や、大学院生に対する研究助成も積極的に行われており、評価できる。
第一薬科大学	2-3. キャリア支援	サイエンスアントレプレナー入門セミナーでは、起業家や新事業を展開するためのアントレプレナーシップや起業スタートアップに関する意識付けが図られており、学生への多面的なキャリア形成を促す取り組みとして評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	これまで学期末に実施していた学生授業評価アンケートを学期途中に実施することで、当該期に実施している授業の改善を迅速に図れるようにしている点は評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	自己点検・評価委員会に外部委員を加え、自己点検・評価のプロセスに新たな視点を導入することで、内部質保証体制の強化、透明性の向上を図っていることは評価できる。
太成学院大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	「学生一人ひとりにそれぞれのサクセスを」を大学の基本コンセプトとして、多様な学生に対する個性と多様性を実現するための教育プログラムである「副専攻制度」「長期履修制度」「早期卒業制度」など特色ある取り組みを実施していることは評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	「TGU-SSCP（太成学院大学・スチューデント・サクセス・コラボレーション・プロジェクト）」において、職員の有志が、学生の満足度向上、大学生活に対するモチベーションの維持・向上に寄与する各種イベントの企画・立案、運営を積極的に行っていることは評価できる。

高崎商科大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	社会の変化に対応して建学の精神を捉え直し、ミッションやビジョンを改訂することで、学科の改組の内実を確かなものにし、その結果、着実な定員確保につなげていることは高く評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	法令で求められる情報に加え、教育関係のデータやアンケート結果などをホームページで積極的に公開していることは評価できる。
高千穂大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	創設以来「家族主義的教育共同体」という学園文化が、学生支援に対する基本的構えとして法人役員・教職員に共有されていることは評価できる。
	2-3. キャリア支援	保護者が組織する「父母の会」主催による保護者対象の就職ガイダンスを実施し、その結果を踏まえ、個別面談や三者面談を行うなど、学生指導、進路指導に生かしている点は評価できる。
	4-2. 教員の配置・職能開発等	FDの一環として、全専任・任期付教員を対象とした、授業公開と相互授業見学が実施され、連合教授会での周知、見学可能な授業一覧表の公表、授業見学報告書の義務化などの工夫により、高い実施率を達成している点は評価できる。
	4-4. 研究支援	個人研究費の一律配分のほかに多様な研究助成金制度を有しており、研究支援に関する事務局体制を整える等、研究支援体制が充実していることは評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	留学時の危機管理について、対応方針、緊急連絡網、対策本部と班編成など大学側の対応の詳細なマニュアルと、学生がすべき対応内容が「海外留学における緊急事態対応マニュアル」として網羅的に整理されていることは高く評価できる。
千葉科学大学	2-2. 学修支援	高等学校と大学の教育の橋渡しの場として大学独自の学修支援システム「まなび場」を設置し、学生が能動的に自学自修できるよう支援している点は高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	深夜帯の学生の安全管理に配慮しつつ図書館ラーニング・コモンズを24時間利用可能とし、学生の学修の利便性を図っている点は高く評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	「千葉科学大学危機管理室」は、危機管理学部の教員を室長とし、平時より不測の事態への事前警戒や注意喚起、緊急時には「緊急事態対応基本計画」に沿った初動対処活動の実施など、外部機関とも連携し、大学の安全を守る対応をしていることは評価できる。
帝京平成大学	3-3. 学修成果の点検・評価	ディプロマ・ポリシーを達成することで身に付けることができる力を、目標とする六つの力とそれぞれを構成する25の具体的な力として分かりやすく説明し学修成果の可視化に取り組んでいることは評価できる。
	6-1. 内部質保証の組織体制	中央教育審議会大学分科会の「教学マネジメント指針」を踏まえた独自の「帝京平成大学教学マネジメント指針」を策定し、運用しており、学修者本位の教育の実現に真摯に取り組んでいる点は高く評価できる。
帝塚山学院大学	2-2. 学修支援	入学前教育や入学時のガイダンスなどにおいて、新入生に在学生在が説明を行うガイダンスや相談会を実施しており、日頃も上級生による学修相談窓口をつくり、相談に対応するなど、学生同士が支え合う仕組みを設けている点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	全学のディプロマ・ポリシーを具体化した指標として策定された「帝塚山学院大学生の10のちから」は、学修成果を可視化し、効果的な点検・評価を可能としており、学生にとっても、大学の求めている卒業時達成目標が理解しやすくなっている点は評価できる。
	5-4. 財務基盤と収支	創立100周年記念募金で築いたネットワークを活用した寄付金の継続的・組織的獲得に向けて、法人本部事務局に「校友課」を新設し、専任職員を配置する等、安定した財務基盤の一つとなるよう取り組んでいる点は評価できる。
	5-5. 会計	大学内のキャッシュレス決済を学生食堂や証明書発行等に導入しており、学生の利便性を高めるとともに、取扱う現金の量を半減化する等、経理処理の効率化にも貢献している点は評価できる。
	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	インターネットを活用した学修環境の提供により、時間的制約・空間的制約によって通学が困難な人に対して幅広く勉学の機会を提供していることは評価できる。
東京通信大学	2-2. 学修支援	@CAMPUSなどを活用し、個々の学生の履修状況を把握した上で履修指導を行うなど、通信制大学ならではの学修支援に取り組んでいる点は評価できる。

東京通信大学	2-3. キャリア支援	通信制大学の特長を生かして、@CAREERや@ROOMなどのシステムを活用して、24時間いつでも就職情報を検索できる利便性については高く評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	学生が@ROOMの該当科目の掲示板に投稿した授業に対する質問や意見を速やかに回答するとともに、それらの内容が同じ科目を履修している全ての学生に共有される点は評価できる。
東北文化学園大学	4-2. 教員の配置・職能開発等	大学の教育・研究・管理運営の向上に寄与することを目的として、自己研修に専念できる「サバティカル制度」を設けており、「多職種連携教育」を体系的な全学プログラムとして構築するなど、本制度による研修内容を活用し成果を挙げている点は評価できる。
徳島文理大学	2-2. 学修支援	学年担任とチューター制度が効果的に機能しており、学生一人ひとりが大学での学修と学生生活全般について、気兼ねなく相談できる仕組みを構築している点は評価できる。
	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	GPの算出方法を令和6(2024)年度から変更しており、f-GPA(functional-GPA)の設定によってより厳正な成績評価ができるよう工夫し、GPの成績評価割合の設定による成績評価の平準化への取り組みを行っていることは評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	教養教育として「文理学」や「遍路ウォーク」など、大学や地域に特有の科目を配置していることは、建学の精神の理解を促し、学生としてのアイデンティティの確立及び愛校心の醸成、そのほかキャリアガイダンス、学修意欲の向上、地域の活性化などを意図した工夫であり評価できる。
富山国際大学	2-2. 学修支援	学生が直面するさまざまな問題に対してゼミ担当教員がアドバイスを与えたり、学生に関する情報交換を教員間で定期的に行ったりするなど中途退学防止への取り組みにより、低い退学率を維持し続けている点は評価できる。
	2-2. 学修支援	学生の学内外での活動の成果をまとめ、学部長が学部全体を総括して、成績表とともに学生・保護者等へ送付している点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	「キャリア関連授業の体系化」「就活困難学生への就活支援」など「TUINS キャリア・サポートプログラム」の七つの柱を中心としたキャリア支援体制により、両学部とも高い就職内定率を維持している点は評価できる。
	2-3. キャリア支援	教員を目指す学生のために、他大学との連合教職開発研究科に加入するほか、教職大学院との連携協定を締結するなど、大学院進学希望者に対するサポートを行っている点は評価できる。
	2-6. 学生の意見・要望への対応	学長と各学部学友会との懇談会を通じて、カリキュラムや資格、施設・設備の活用方法など学生からの率直な意見や提言を聴き取る機会が設けられている点は評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	教育の質保証と学生サービスの更なる向上、各部局の業務効率化と意思決定から実行までの時間短縮を目的とした学長主導による教学マネジメント機能向上のための部局横断的な組織改編を行い、成果を挙げている点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	「名古屋自由学院奨学金基金」を財源として、成績優秀者への奨学金のほかにも「名古屋自由学院緊急奨学金制度」を創設する等、学費の支払いが困難な学生に対しても大学独自の修学支援を行っていることは評価できる。
奈良学園大学	2-2. 学修支援	教員への相談を支援する存在としての学生ピア・サポーターを養成し、新入生の履修登録などの支援活動を行っている点は評価できる。
	2-2. 学修支援	学生が「人を支える人になる」という目標を実現できるよう、「奈良学園大学コミットメント」を定め、支援する姿勢を表明している点は評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	「本の森」「研究の森」などのテーマ別に図書を配架したコーナーの設置や「図書館学生サポーター制度」を設け、学生目線で親しみやすい図書館づくりを行っていることは高く評価できる。
	4-3. 職員の研修	「学び直し助成金」制度を設置・活用し、教職員が、職務における知識やスキルを高め、教育の質や生産性の向上に資するための自己研さんを経済的にサポートしている点は評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	中期計画に基づいて策定された各年度の事業計画の取り組み結果について、理事会での審議、評議員会への報告の他、前年度の振り返りと次年度に向けた意見交換を行う目的で、理事・評議員合同の懇談会を実施している点は評価できる。

奈良学園大学	6-1. 内部質保証の組織体制	近隣自治体、地域の産業界、学生、学生の保証人等の幅広い視点から大学の内部質保証について意見を徴することを目的とした「第三者評価懇談会」を毎年開催していることは評価できる。
新潟食料農業大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	食料・農業分野における自治体や企業等との社会連携活動を積極的に推進するなど、大学の立地地域ならではの教育研究活動を通じて地域社会の発展に貢献している点は、使命・目的及び教育目的の実現に資する個性・特色ある取組みであり評価できる。
	2-3. キャリア支援	合同業界研究会である「NAFU JOB 博」は、学生に新潟県内の食品、農業関連企業の情報を提供することで、県内出身学生だけでなく県外出身者にも県内での雇用機会の確保を図り効果を上げている点は、立地地域の活性化にも貢献する取組みであり評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	専門教育担当教員と英語教育担当教員が連携して食・農をテーマにした独自の英語教材を開発することで、学生の英語に対する学修意欲を向上させ、かつ専門教育に効果的につなげている点は評価できる。
	4-3. 職員の研修	職員の事業創造大学院大学への入学支援は、実質的に学費を法人側で負担して職員の学位取得を促進する取組みであり、実際に経営管理修士の学位を取得した職員が、その知識を日常業務に生かしている点は高く評価できる。
西九州大学	2-2. 学修支援	ダイバーシティセンターを開設し、障がいのある学生、留学生、性的多様性を持つ学生の支援を充実させていることは、評価できる。
日本経済大学	2-2. 学修支援	全学生の学修状況を把握し、支援する仕組みとして、ゼミの指導教員による「クラスカウンセラー」制度を活用しており、20人から40人未満の規模で初年度から卒業まできめ細かく学生対応している点は評価できる。
	5-1. 経営の規律と誠実性	国際的人道支援としてウクライナ避難民学生について、紛争勃発から迅速に体制を整え、学修環境の提供及び経済的支援を行い、受入れている点について高く評価できる。
日本女子体育大学	2-3. キャリア支援	キャリアセンター内の就職相談室にキャリアカウンセラーの資格を持つ学外スタッフの配置や遠隔面談用ブースの設置など、学生の多様なニーズに対応した支援を行い、教育課程内のキャリア教育と合わせて、高い就職率を誇る結果に結びついている点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	健康管理センターに内科医、婦人科医、整形外科医、看護師を配置し、競技者の故障に対しては整形外科医が主導して競技種目の特性に応じたりハビリテーション計画を立て、競技指導者とも連携し、学生が競技生活に復帰できるまでサポートするシステムは高く評価できる。
	4-4. 研究支援	定額研究費に加えて、「共同研究費」「二階堂奨励研究費」「挑戦研究費」などの競争的研究費を設け、積極的に研究を支援し、科学研究費助成事業の採択件数増加に結びつけている点は評価できる。
浜松学院大学	2-3. キャリア支援	インターンシップ体制として「長期企業内留学」及び「学校インターンシップ」をキャリア関連科目として教育課程に整備し、「社会人基礎力評価シート」や事後報告会で自己評価させていることは、学生のキャリア意識向上に寄与しており、高く評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	社会人として求められる力を身に付ける「DiGoResプログラム」とアクティブ・ラーニングの手法を駆使し地域課題に真摯に取り組む機会を提供する「長期学外学修プログラム」は、教育・研究・社会貢献が一体となった取組みであり、高く評価できる。
東日本国際大学	5-4. 財務基盤と収支	文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業」、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「大学・高専機能強化支援事業」等、複数年にわたり外部機関の選定事業・補助金に採択・選定され、外部資金の獲得を積極的に行っていることは評価できる。
兵庫医科大学	1-1. 使命・目的及び教育目的の設定	創立50周年や大学統合を契機に、建学の精神を根幹に創業者の理念を受継ぐべく定めたスローガン「EMPOWER THE PEOPLE」をはじめ「ユニバーシティ・アイデンティティ」は、学生・教職員に広く浸透し、大学の将来計画の実現への羅針盤となっている点は評価できる。

兵庫医科大学	2-2. 学修支援	医学部では、ピアサポート制度を通じて上級生が下級生の学修支援や相談に対応することで学生同士が支合い、主体的に学合うシステムを構築している点は評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	6年次生専用の自習室を含む多数の自習室やSGL室を設置し、更に学生の自主学習のために広いスペースを有効に活用している点は評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	「電子カルテトレーニングセンター」には多くの電子カルテ端末を配備し、臨床実習における学生教育を効果的に支援している点は評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	学修成果の検証として、ディプロマ・ポリシーの達成度を図表化したディプロマサプリメントを全学部で作成し、学生へ明示している点は高く評価できる。
	4-1. 教学マネジメントの機能性	学長が、医学部では主任教授等数人、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部では各学部教授会メンバーに対して個別にヒアリングを行い、教育活動や社会的活動の状況、科学研究費助成事業への申請状況、大学に対する要望等を把握し、大学運営に活用している点は評価できる。
6-1. 内部質保証の組織体制	学外の有識者が、大学の内部質保証を評価する内部質保証評価会議を行っていることは評価できる。	
福岡国際医療福祉大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	学長が主体的に各学科の代表学生との意見交換の場を設け、学修環境の改善を計画的かつ着実に進めていることは評価できる。
福山大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	「新しい共通教育について語り合う会『フクトーク』」を設け、学生が提案した改善案を実際の教育に反映させていることは、高く評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	80項目に及ぶ大学独自の点検項目を設けて、定期的に自己点検・評価を実施し、評価結果を数値化して課題を明確にして改善に取り組んでいることは評価できる。
文化学園大学	2-5. 学修環境の整備	服飾関連資料が充実する図書館、歴史的価値のある衣装を収蔵する「文化学園服飾博物館」や「文化学園ファッションリソースセンター」が設置され、在学生、教職員、学外研究者等が授業や研究で活用している点は高く評価できる。
	4-3. 職員の研修	「全学FD・SD研修会 分科会」では教員と事務職員が合同で10人程度のグループで討議した後、報告書によって全教職員がその内容を共有する取組みにより、教職員が立場を超えた意見交換を行い、その結果を共有して資質向上に励んでいる点は高く評価できる。
	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価	大学独自の「自己点検・評価報告書」について、検討機関ごとに「本年度の課題」「取組の結果と点検・評価」「次年度への課題」の三つを明示することで、自己点検・評価活動を補完するものとして有効に活用され、PDCAサイクルが継続的に機能している点は評価できる。
平安女学院大学	2-2. 学修支援	学修面で困難を抱える学生を支えるためにラーニングサポートセンターを設置し、特に子ども教育学部においては、学生有志がピアチューターとして授業課題の支援や学生生活の相談に応じている点は評価できる。
	2-4. 学生サービス	卒業を条件として返還を免除される海外留学奨学金によって、毎年多くの学生の異文化体験の機会を実現していることは評価できる。
北翔大学	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映	大学の使命・目的等を兼任教員に対し「非常勤講師懇談会」で説明していることは独自性の高い取組みであり評価できる。
	2-3. キャリア支援	3学科に設置された教職課程において、課程内のみならず教職センターによる採用試験対策講座の開講、面接・実技指導など、教員・職員が一体となって教職志望学生の支援を行い、教員採用試験で多数の合格者を出し成果を挙げている点は高く評価できる。
	2-4. 学生サービス	保健センター、学生相談室、障がい学生支援室などが設置され、学生用の多目的スペースや休息場所も充実しており、非常に手厚い学生サービス、学生サポートにより学生生活を総合的に支援している点は高く評価できる。
	2-5. 学修環境の整備	札幌円山キャンパスの「北方圏学術情報センター」は多目的ホールやギャラリーを備え、学生の舞台パフォーマンスやプレゼンテーション、美術作品の発表・展示の貴重な場を提供しており、とりわけ芸術学科の学生にとって有効な実習施設となっている点は評価できる。

北翔大学	2-6. 学生の意見・要望への対応	学生FD団体である「北翔アンビエント」の活動を展開しており、他大学の学生FD団体との交流、校内での学生FDイベントなどを行い、今後の活動にも大いに期待でき、学生を主体とした意見を取り入れる仕組みを設けている点は高く評価できる。
	3-3. 学修成果の点検・評価	精神保健福祉士養成のための実習における学生の取り組み状況や学びの成果を共有するため、学生、教員、実習先等が参加して行う「実習報告会」を実施していることは高く評価できる。
	4-3. 職員の研修	若手職員のキャリア形成支援の一つとして学内インターンシップを行うとともに、若手職員を主対象とした勉強会を開催しており、参加者からも好評である点については高く評価できる。
八洲学園大学	2-2. 学修支援	「学生支援センター説明・交流会」を定期的に開催し、課題レポート対策等をテーマにチャット機能を用いて他の学生との交流機会を設けている点は評価できる。
横浜商科大学	2-2. 学修支援	初年次科目に上級学生によるSAを配置することによって、初年次学生の学修支援及び学修意欲の向上に寄与している点は評価できる。
	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	シラバスにおいて、授業計画及び成績評価基準並びにディプロマ・ポリシーとの関連が全ての科目で示され、運用している点は評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	カリキュラムがディプロマ・ポリシーを達成する目的で作成されていることが明白に理解できる構造となっている点は評価できる。
横浜創英大学	3-2. 教育課程及び教授方法	毎年度発行の「考えて行動のできる人を育成する教授方法集録集」は、建学の精神体现の観点からも、教授方法の工夫、開発及び共有の観点からも評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	こども教育学部の「特修プログラム」は、学生の関心や特技を追求していくことを通してその領域の学びを深め、学びに向かう主体的な力を形成し、自己肯定感を高めていくことを目指したものであり、高く評価できる。
LEC東京リーガルマインド大学院大学	2-3. キャリア支援	正課授業以外にFP&A(Financial Planning & Analysis)対応オンライン講座、U. S. CMA(米国公認管理会計士)勉強会などの公開講座を開講し、学生の質の向上を目指していることは評価できる。
	3-2. 教育課程及び教授方法	論文指導に関して、作成過程を複数の段階に分け、各段階の達成目標を設定の上、進捗を管理するマイルストーン管理とチーム制による指導を行っている点は高く評価できる。

2. 短期大学

機関名	基準項目	優れた点
京都外国語短期大学	2-2.学修支援	学科、ランゲージセンター及び「外国語自律学習支援室NINJA」が正課内外で連携し、さまざまな学修プログラムを提供して個々の学生のニーズに対応した学修支援を実現していることは、学生の学びや交流という点において評価できる。
	3-1.単位認定、卒業認定、修了認定	卒業要件に短期大学士課程に対応した必修科目「Graduation Project II」を設置し、卒業認定基準を厳正に適用していることは評価できる。
札幌大谷大学短期大学部	2-2.学修支援	入学者全員に対し、心理面に寄添う公認心理師が面談を行うことにより、入学時の精神的、身体的不安を個別に把握し、必要に応じて教員との情報共有、フォローアップ体制を備えている点は評価できる。
	6-1.内部質保証の組織体制	「三つのポリシーに基づく取組の点検・評価」を短期大学が所在する札幌市東区に毎年依頼し、外部者により三つのポリシーの教育効果を点検していることは評価できる。
山陽学園短期大学	1-1.使命・目的及び教育目的の設定	建学の精神に基づき定めた「教学マネジメント基本方針」に従い、各学科が「教学推進会議」と連携し学問分野の進展や社会ニーズの変化に適合しているかを検討している点は評価できる。
尚綱大学短期大学部	2-4.学生サービス	全学生に対し疲労蓄積度調査を毎年実施し、臨床心理士による分析結果を学生にフィードバックすることで、学生の健康的な生活をサポートしていることは評価できる。
	3-1.単位認定、卒業認定、修了認定	各学科独自に作成する「フレッシュャーズガイド」は、カラー印刷でディプロマ・ポリシーや学科の特徴をまとめ、オリエンテーションや「基礎セミナー」など多様な場面で活用されており、学生の理解を図る充実した取組みとして評価できる。
	3-2.教育課程及び教授方法	教員が自身の教育を振り返るためのティーチング・ポートフォリオを全学的に導入し、教職員と学生に公開して教育研究活動の理解と充実が図られている点は、短期大学において先進的かつ模範的な取組みとして評価できる。
	5-1.経営の規律と誠実性	情報倫理及び人権配慮の観点から「尚綱学園ソーシャルメディア利用のガイドライン」を策定し、ソーシャルメディアの適切な利用に関する啓発を行っている点は評価できる。
	6-3.内部質保証の機能性	毎年度、外部有識者による外部評価委員会を開催して外部評価報告書を作成し、自己点検・評価委員会、内部質保証委員会、評議会、常勤理事会などで共有することで、運営の改善・向上、内部質保証の向上に取組んでいることは評価できる。
第一幼児教育短期大学	1-2.使命・目的及び教育目的の反映	教職員においては建学の精神を具体的な活動に落とし込み、教育の質をより高めようとする考え方が浸透しており、建学の精神を本質的に共有できていることは、私学のあり方として高く評価できる。
	2-1.学生の受入れ	保育者を志す受験生が自分の「個性」を自由に表現する「ようたんカード」を入試課題に導入していることは、建学の精神に掲げる「個性の伸展」に沿って、受験生の「個性」を丁寧に見出そうとする意欲的な取組みとして評価できる。
	2-2.学修支援	短期大学独自の科目である「幼児教育研究会」は、建学の精神を体得するための重要な科目として位置付けられており、1・2年次生が合同で履修することで学年を超えた学生間交流を促進する学びの場としても機能している点は評価できる。
	2-3.キャリア支援	長期にわたり就職率100%を維持するとともに、専門職への就職率も高く、資格・免許を生かした就職が実現している点は評価できる。
	2-5.学修環境の整備	附属幼稚園の園舎が短期大学の校舎と一体化した構造となっており、授業やボランティア活動を通じて園児との交流機会を充実させることで、学生の学びの動機付けや修学意欲の向上を図るなど、附属幼稚園を有効に活用している点は高く評価できる。
福岡こども短期大学	2-1.学生の受入れ	入学試験の方法として、独自に作成した「保育ゆめカード」を全ての入試制度に使用し、受験生の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定している点は評価できる。
	2-2.学修支援	出身地区や出身県ごとに全ての学生に対して「ふるさとアドバイザー」を置き、入学時から実習・就職活動・卒業に至るまで学生生活全般を支援する体制を整備している点は評価できる。

福岡こども短期大学	2-5.学修環境の整備	本格的な舞台設備を完備した「こども劇場」を、「幼児教育研究会」の研究活動の集大成になる「こどもフェスティバル」の開催などに利用するとともに、附属園等の幼児と学生の交流の場として活用している点は評価できる。
-----------	-------------	--